

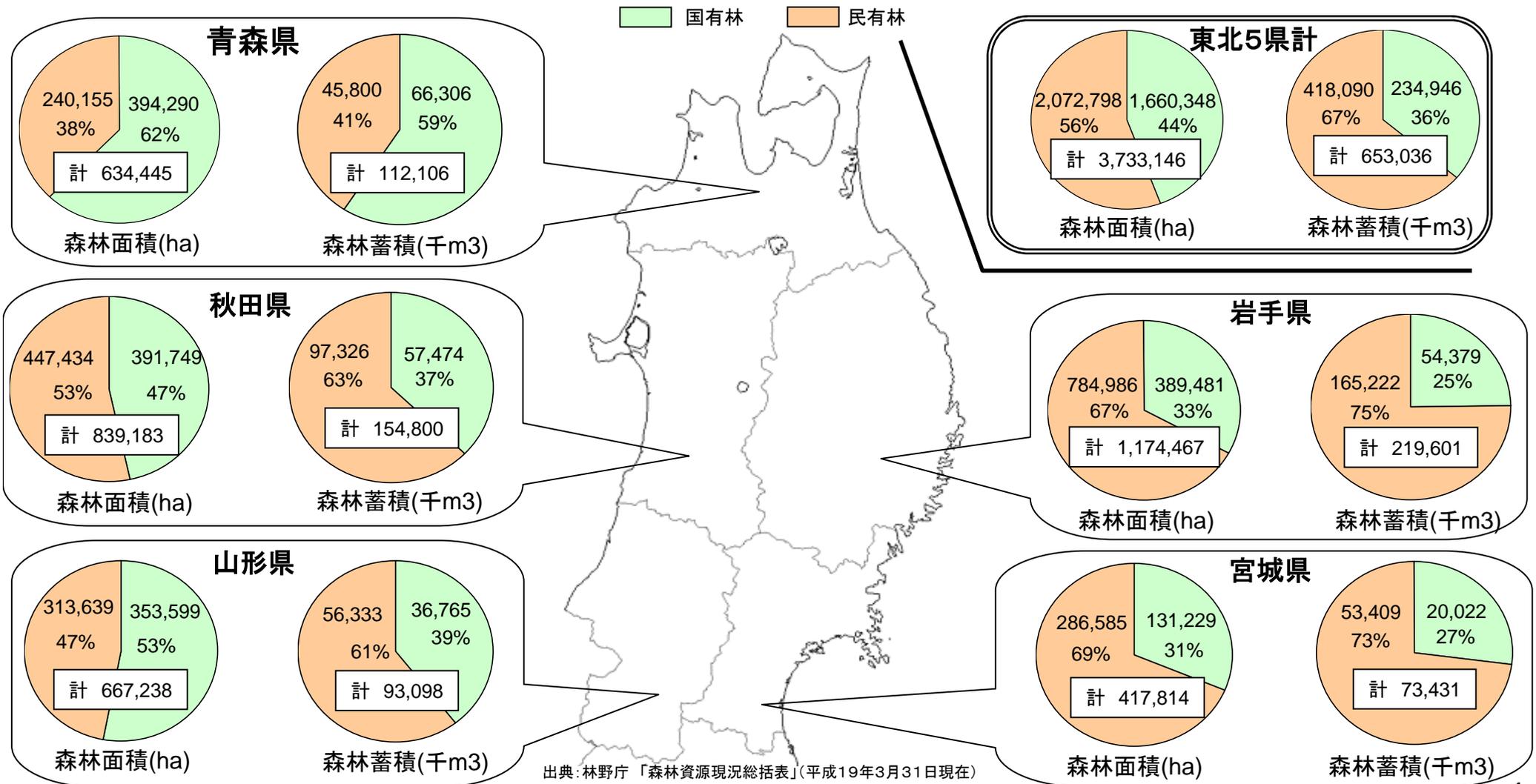
東北森林管理局管内の 木材需給、木材価格等について

平成25年7月23日(火)

東北森林管理局

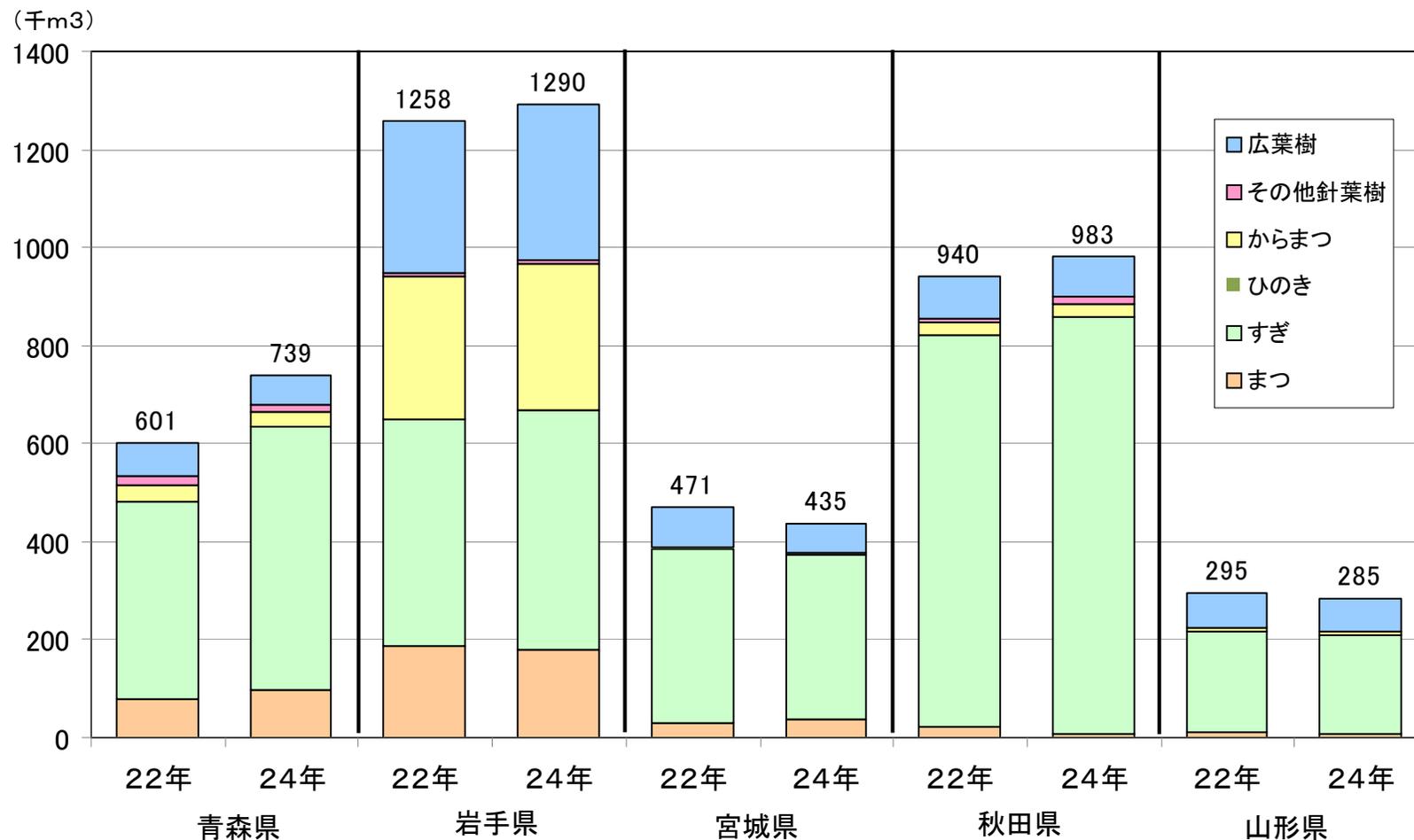
■ 東北森林管理局管内各県の森林面積及び森林蓄積量

- 国有林比率が高いのは青森県、秋田県、山形県で、青森県と山形県は50%を上回る。
- 東北5県の総蓄積は約6億5千万m³で全国44億3千万m³の15%に相当する。県別に見ると岩手県が220百万m³で突出して多い。



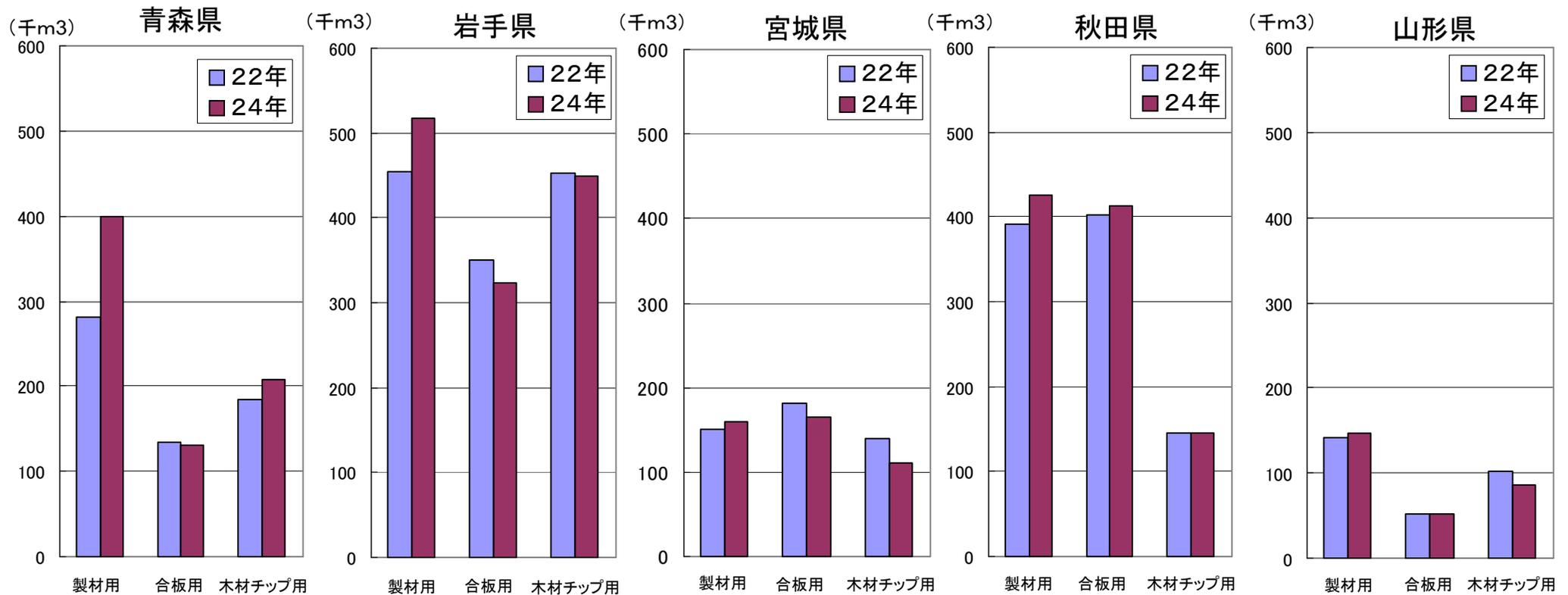
■ 東北森林管理局管内各県の国産材の樹種別素材生産量

- 生産樹種は県によって大きく異なり、青森県・宮城県・秋田県・山形県ではスギが主体、岩手県ではスギに加え、カラマツ・広葉樹の生産量が多い。
- 24年を22年と比較すると青森県が123%、岩手県103%、宮城県92%、秋田県105%、山形県97%となっており、北部3県では震災前の生産量を上回っている。



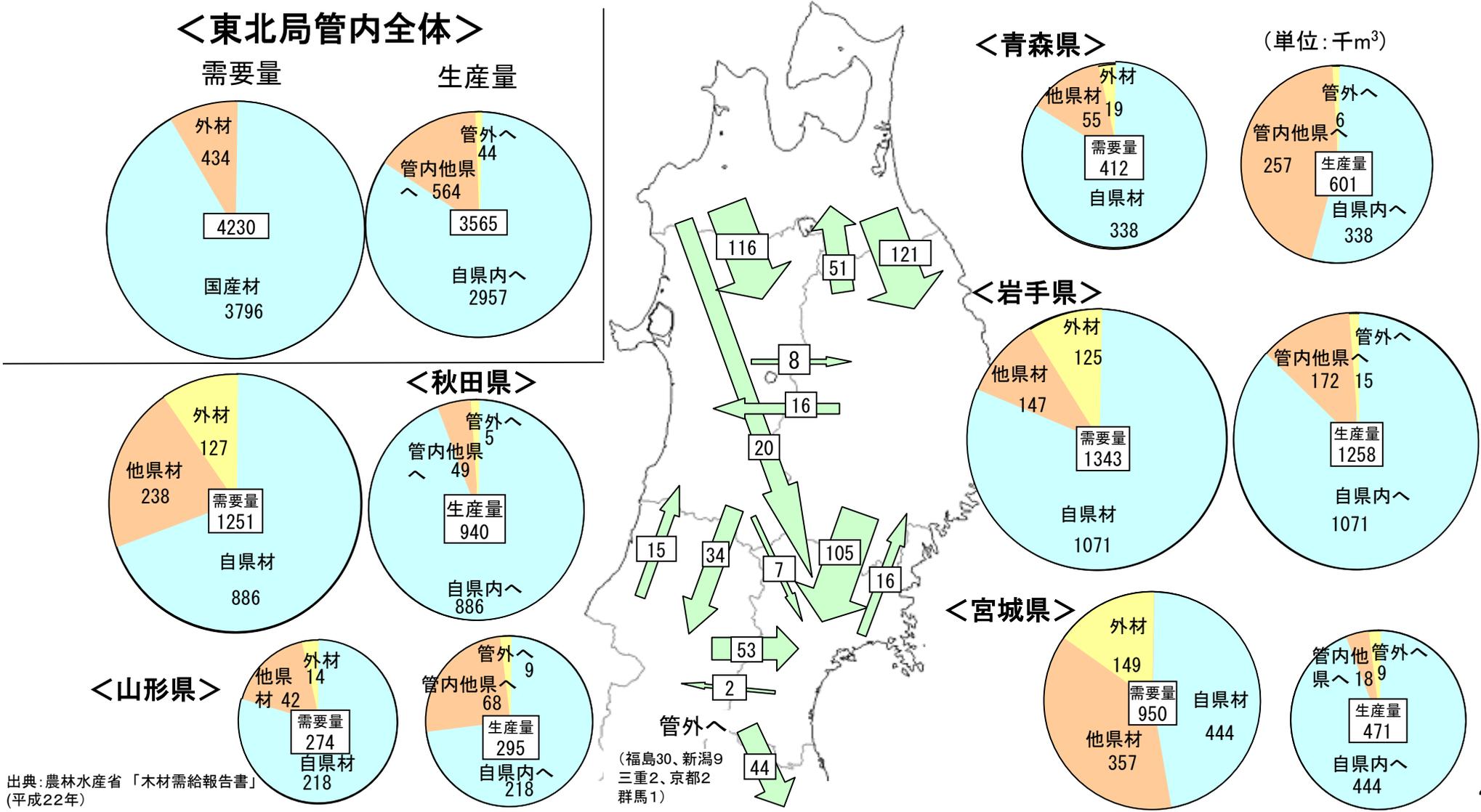
■ 東北森林管理局管内各県の需要部門別国産材の素材生産量

- 青森県、岩手県、山形県は、製材用及びチップ用が多いが、宮城県、秋田県では合板用が多く、秋田県の平成24年のチップ用素材の生産量は生産量全体の15%程度。
- 平成24年の製材用素材の生産量は、管内の全ての県で平成22年を上回っている。
- 宮城県では合板用、チップ用、山形県ではチップ用が減少している。



■ 平成22年における東北森林管理局管内各県の素材流通構造

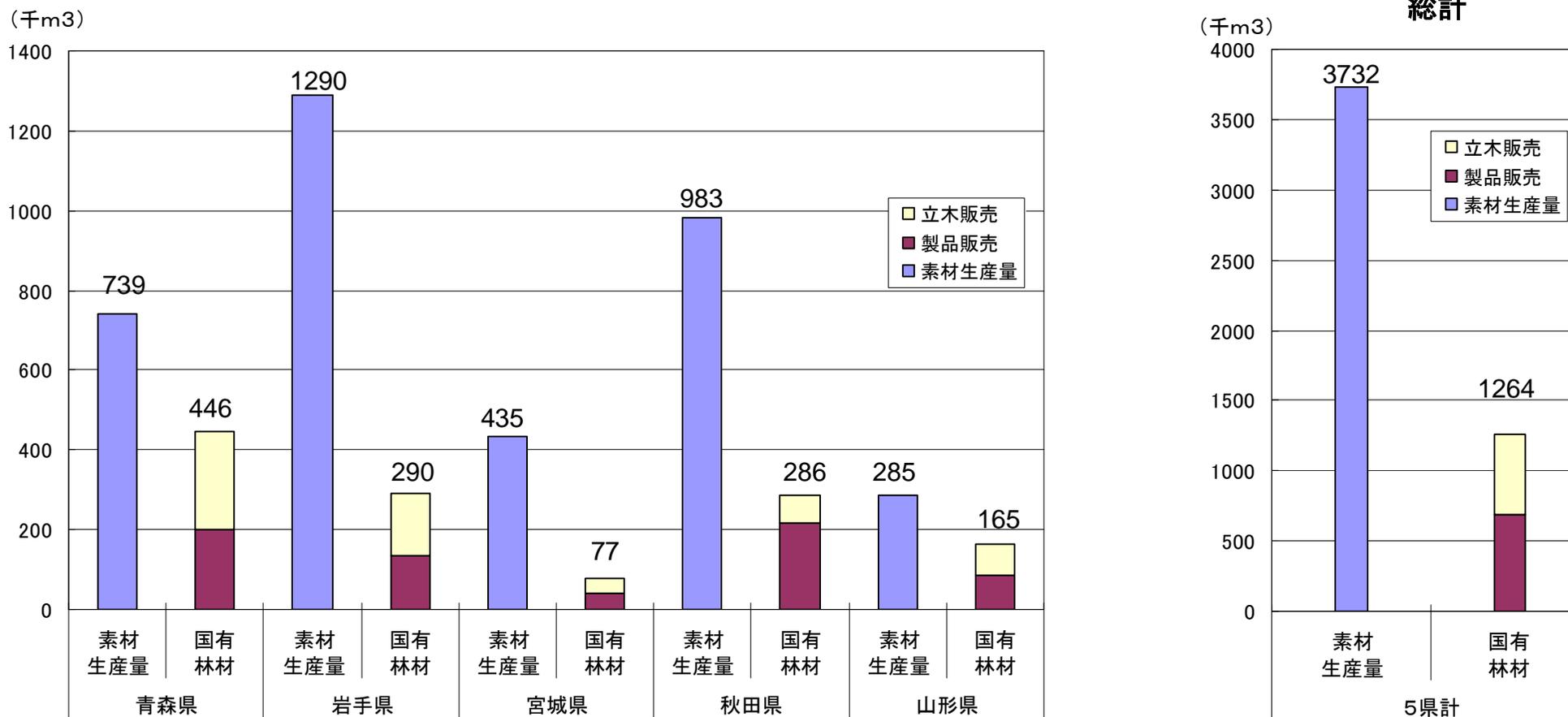
- 東北森林管理局管内5県の国産材流通は管内での流通がほとんどであり、管外は生産量の1%程度である。
- 青森県、山形県では生産量が需要量を上回っており、特に青森県は生産量の4割以上を他県に出荷、他方、宮城県の需要量は生産量の約2倍で、岩手県、青森県等から入荷している。



■ 東北森林管理局管内各県の素材生産量と東北森林管理局の製品・立木販売計画量の比較

○ 県によって、素材生産量に占める国有林材の割合は大きく異なり、青森県、山形県では生産量に占める国有林材の割合が大きい。

各県の素材生産量と東北森林管理局の製品・立木販売量(平成25年度計画量)との比較



※ 素材生産量は、民有林材と国有林材の合計の材積。

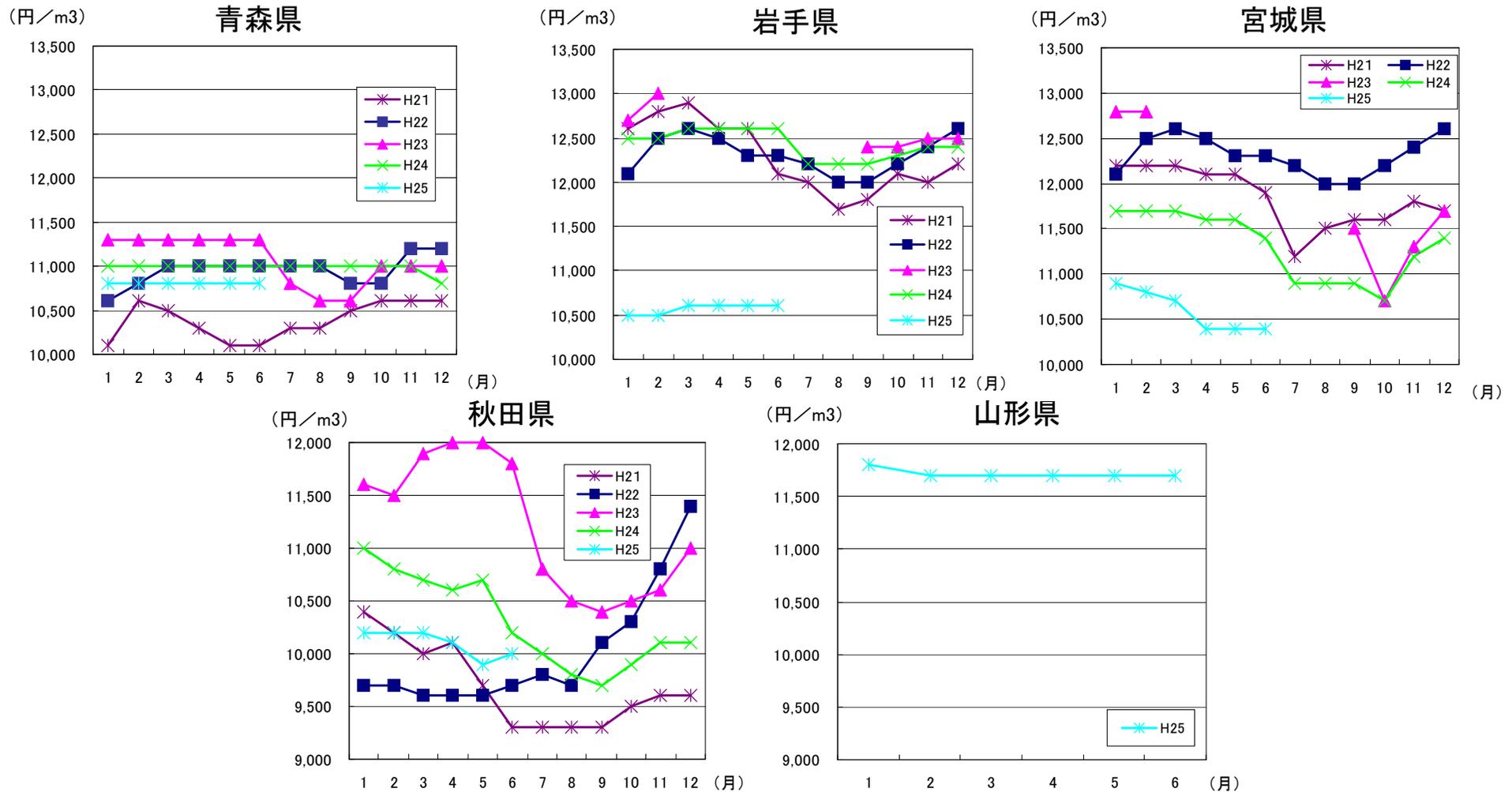
※ 国有林の数値は平成25年度の計画量。また、立木販売の数値は立木材積であり、素材生産量とは異なる。

出典: 農林水産省「平成24年木材統計」、東北森林管理局 業務資料

丸太価格の推移 (すぎ中丸太 3.65~4.00m、14~22cm、込み)

(平成21年1月~平成25年6月)

- 春~夏にかけて下落し、秋~冬に上昇する季節変動がみられる。
- 宮城県、秋田県では年による価格差があるが、岩手県では、この5年間で、年による価格差は小さい。



※ 価格は工場着の価格。

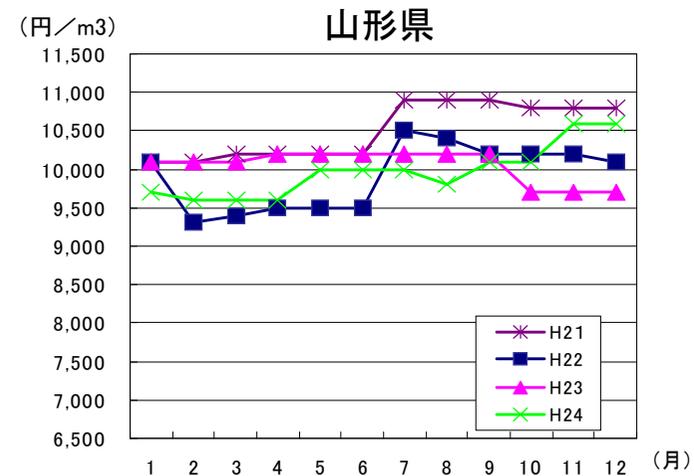
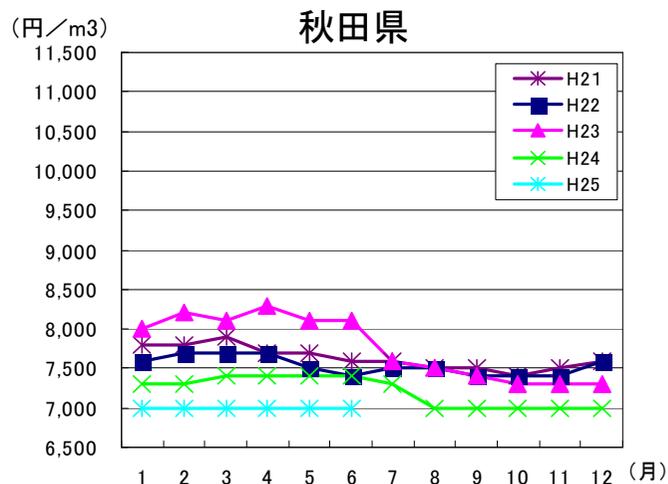
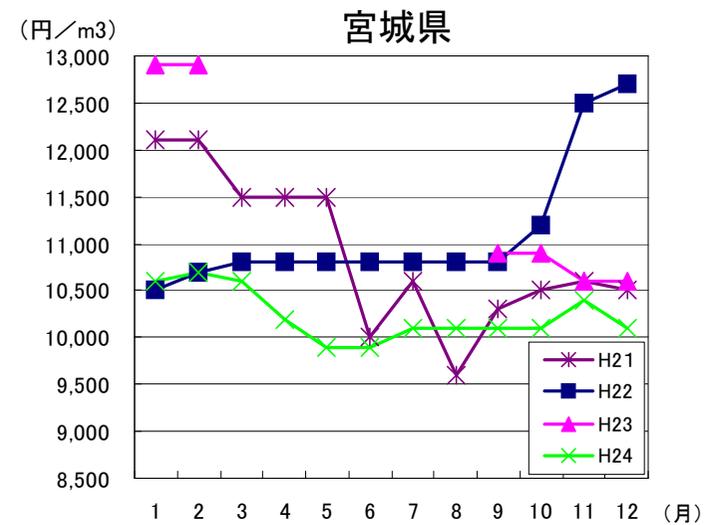
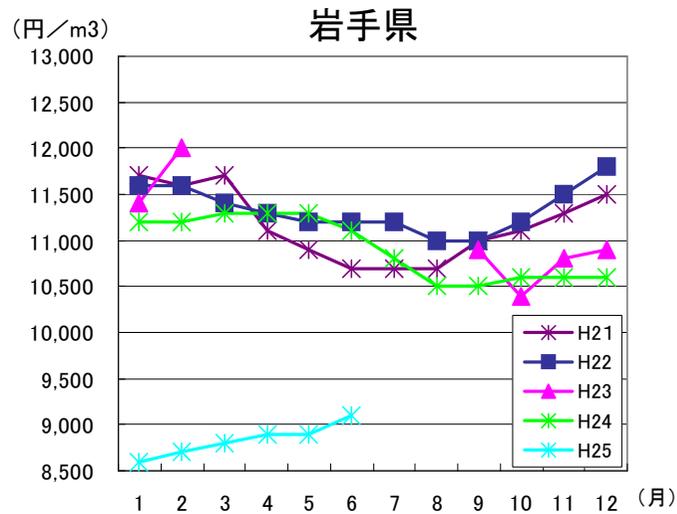
※ 平成23年3~8月は東日本大震災の影響で、岩手県・宮城県のデータは未取得。山形県は平成25年1月から調査開始。

※ 平成25年1月から調査方法等が変更され、それまでのデータとは連続しない。

丸太価格の推移 (すぎ小丸太 3.65~4.00m、8~13cm、込み)

(平成21年1月~平成25年6月)

○ すぎ中丸太と比べて季節変動が小さい。宮城県は他県と比べて価格の変動が大きい。

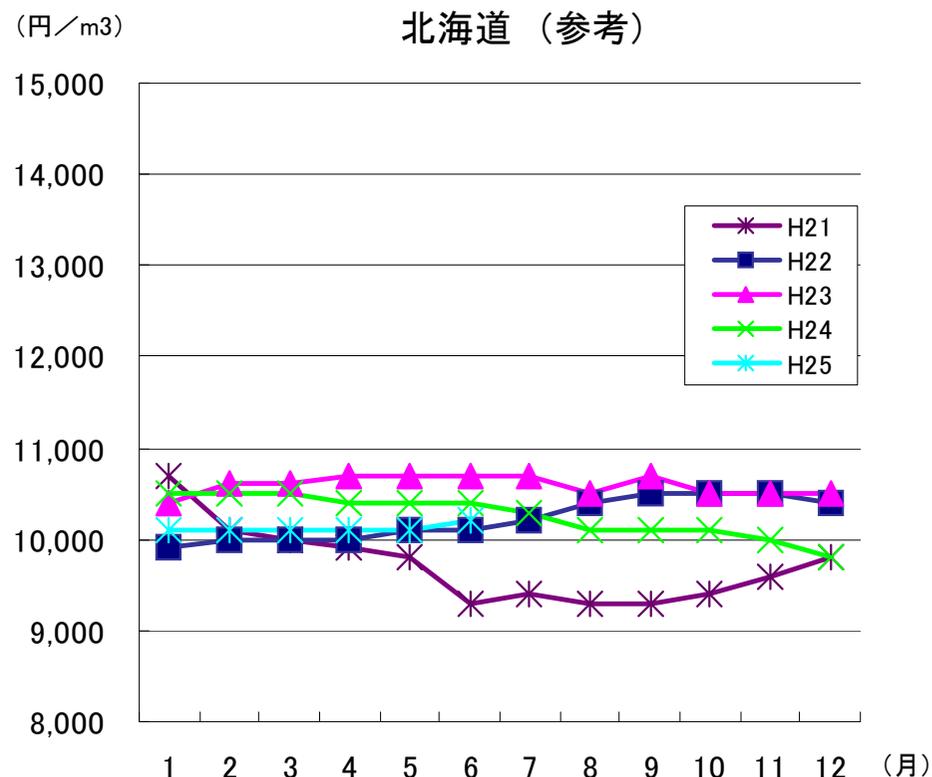
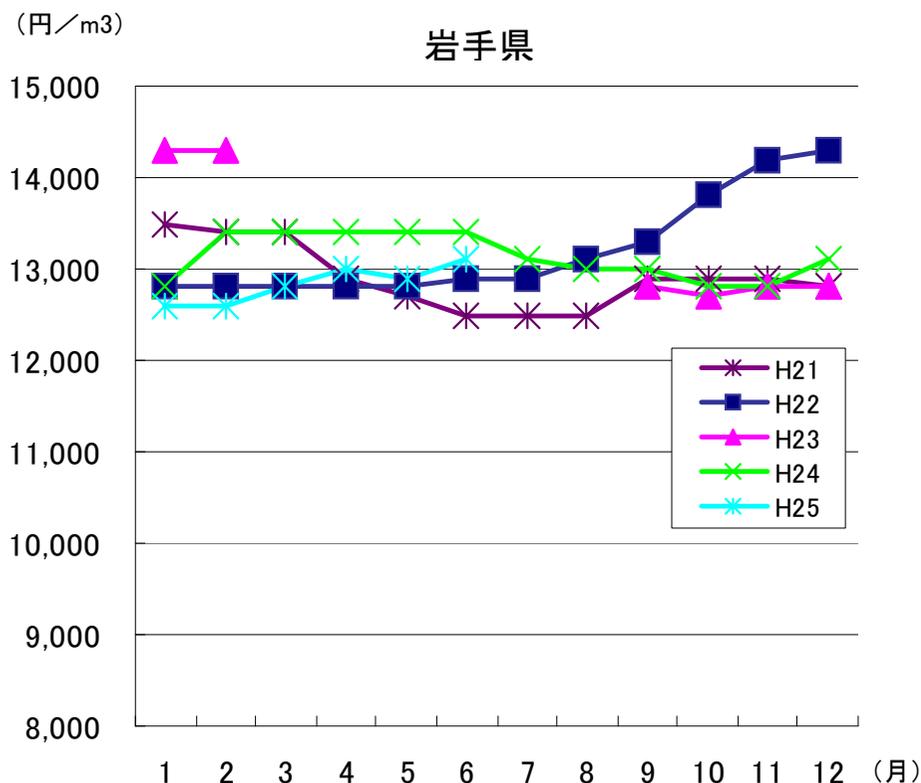


※ 価格は工場着の価格。
 ※ 平成23年3~8月は東日本大震災の影響で、岩手県・宮城県のデータは未取得。山形県は平成25年1月からデータ無し。青森県は本期間においてデータ無し。
 ※ 平成25年1月から調査方法等が変更され、それまでのデータとは連続しない。

丸太価格の推移 (からまつ中丸太 3.65~4.00m、14~28cm、込み)

(平成21年1月~平成25年6月)

- スギ比べて、価格の季節変動は小さい。
- 岩手県の価格は北海道より高く、平成23年1月では3900円の差がある。



※ 価格は工場着の価格。

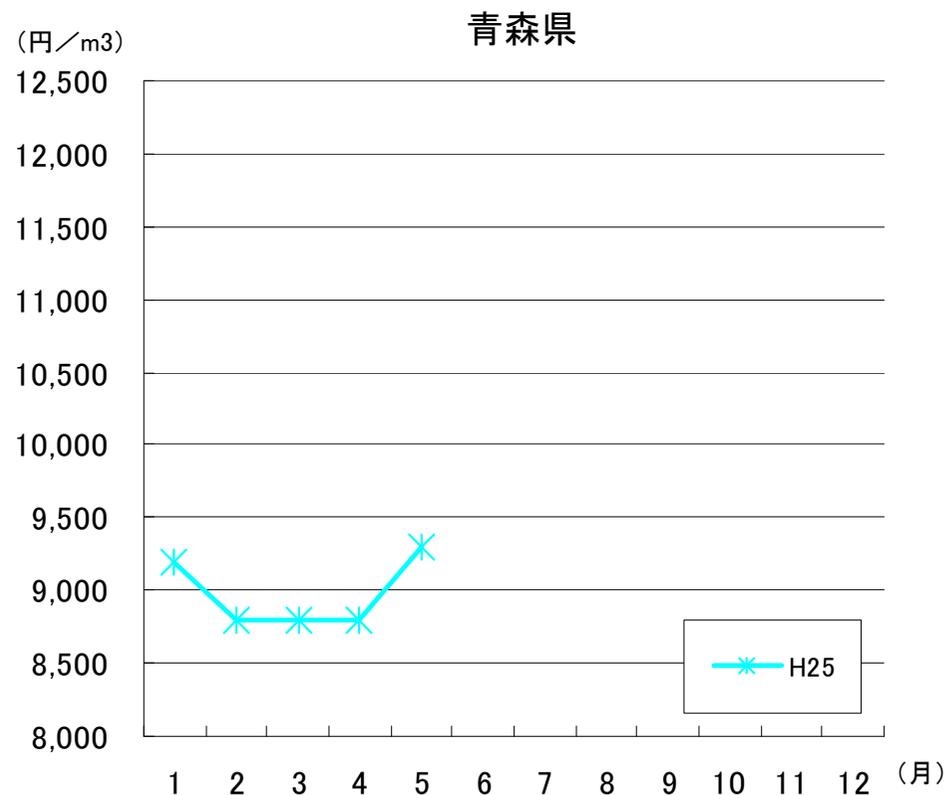
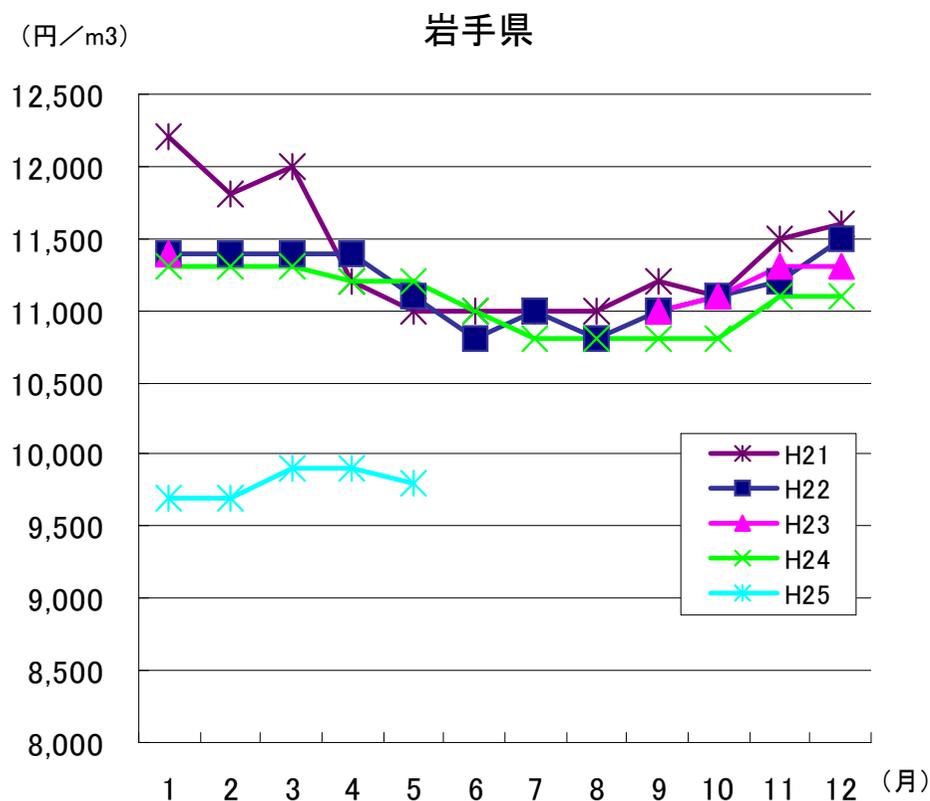
※ 平成23年3月~8月は東日本大震災の影響で、岩手県のデータは未取得。

※ 平成25年1月から調査方法等の変更があり、それまでのデータとは連続しない。

■ 丸太価格の推移 (まつ 3.65~4.00m、14~28cm、込み)

(平成21年1月~平成25年6月)

○ スギに比べて季節による値動きは小さく、年による価格変動も小さい。



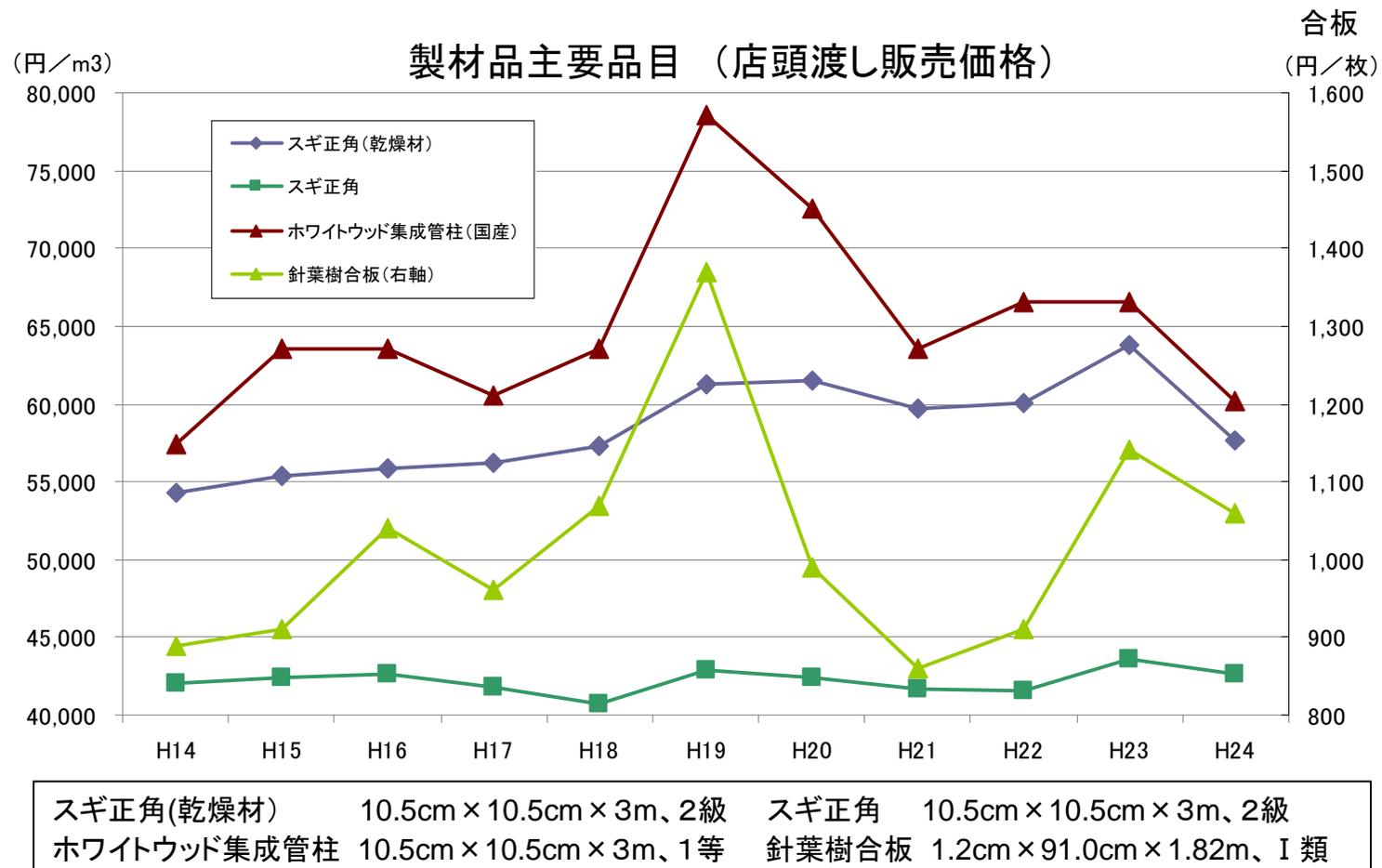
※ 価格は工場着の価格。

※ 平成23年3月~8月は東日本大震災の影響で、岩手県のデータは未取得。青森県については、平成25年1月から調査が開始された。

※ 平成25年1月から調査方法等の変更があり、それまでのデータとは連続しない。

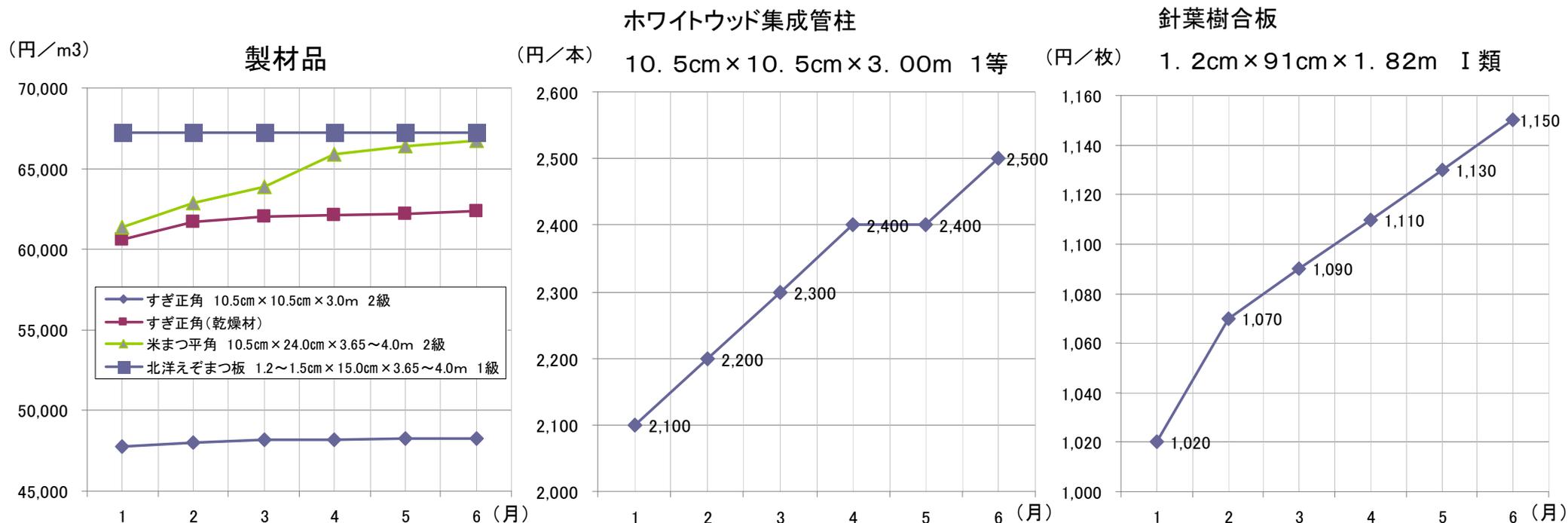
■ 全国の製材品主要品目の価格推移（平成14年～平成24年）

- 平成19年は為替レートや我が国の住宅着工戸数の減少等により、ホワイトウッド集成管柱(国産)、針葉樹合板の価格の価格が大幅に上昇し、平成20年以降下落した。
- スギ正角(乾燥材を含む)は、ホワイトウッド集成管柱と同様の値動きとなっているが、上げ幅は小さい。



■ 全国の製材品等主要品目の価格推移（平成25年1月～6月）

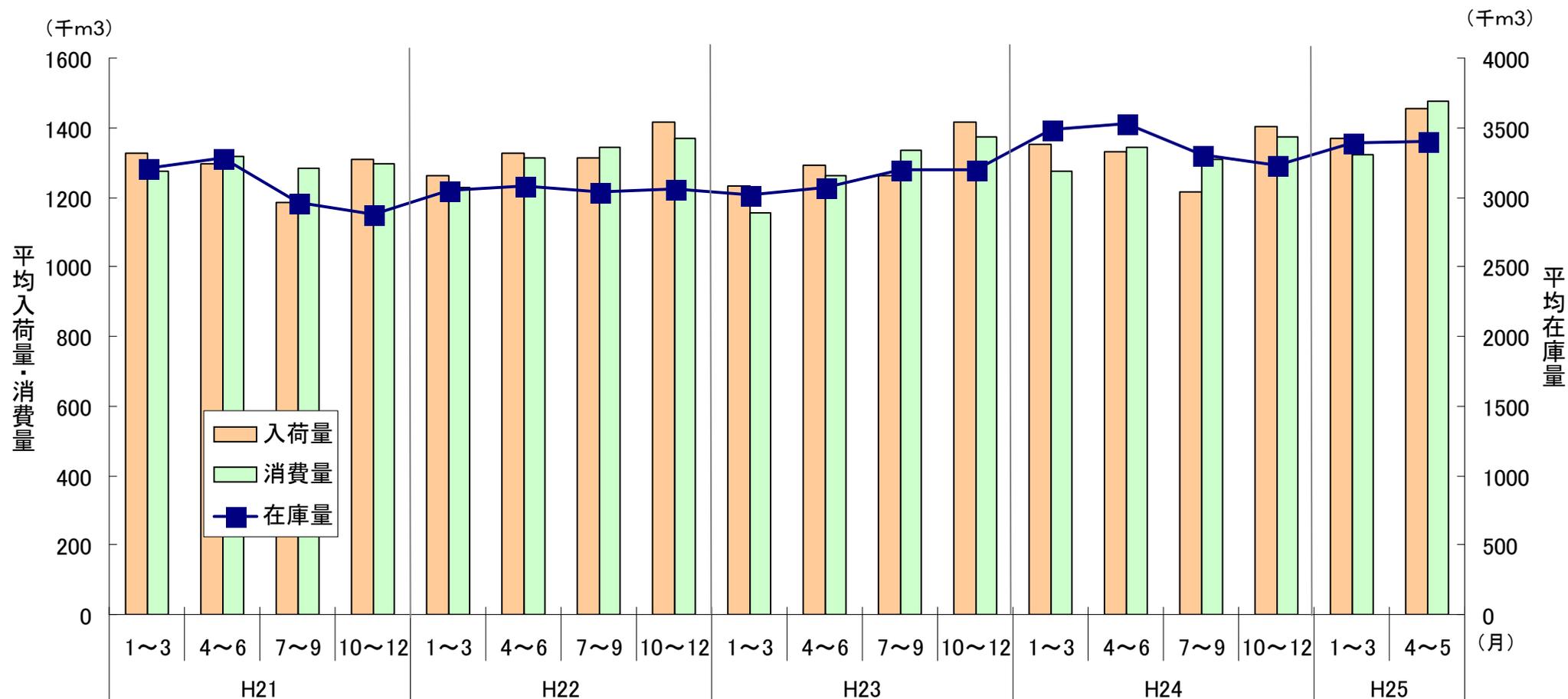
- ホワイトウッド集成管柱は1月から6月の間で約19%上昇、針葉樹合板も同期間で約13%上昇。
- 米まつ平角は同期間で約9%上昇、すぎ正角(乾燥材)は漸増、その他はほぼ保合で推移。



■ 全国の製材用素材の平均入荷量・消費量・在庫量の推移（平成21年1月～平成25年5月）

○ この5年間で見る限り、季節変動の傾向は年により異なる。

○ 平成25年の1～5月は入荷量、消費量とも平成24年以前と比較してやや増加している。

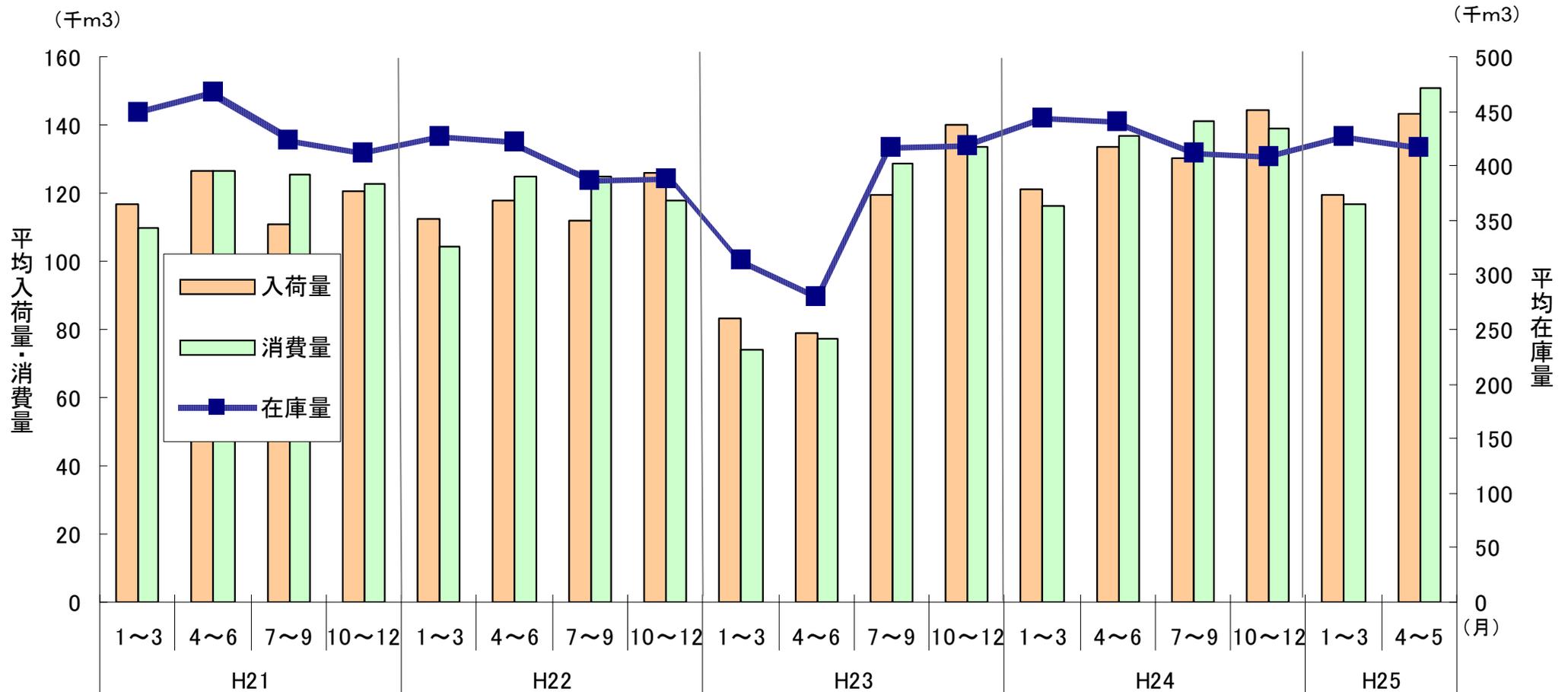


※ 四半期ごとに集計した。

※ 平成23年3～6月は東日本大震災の影響で、岩手県・宮城県・福島県のデータは未取得。

■ 東北森林管理局管内各県の製材用素材の平均入荷量・消費量・在庫量の推移 (平成21年1月～平成25年5月)

- 入荷量・消費量は第2四半期に増え、在庫量は第3四半期に下がる傾向が見られる。
- 24年の入荷量・消費量は22年を上回る水準となっている。

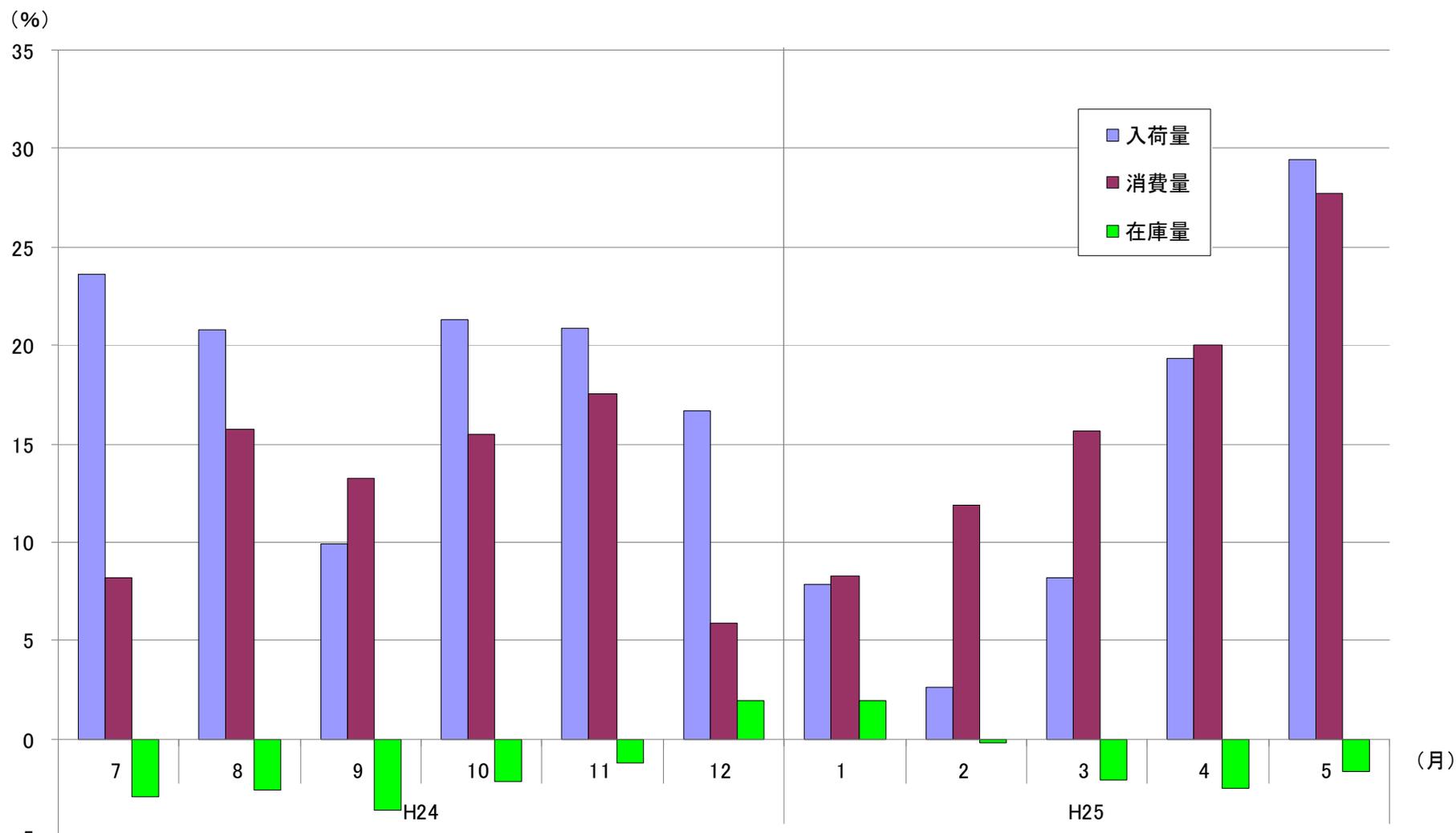


※ 四半期ごとに集計した。
 ※ 平成23年3～6月は東日本大震災の影響で、岩手県・宮城県の詳細データは未取得。

■ 東北森林管理局管内各県の製材用素材の入荷量・消費量・在庫量

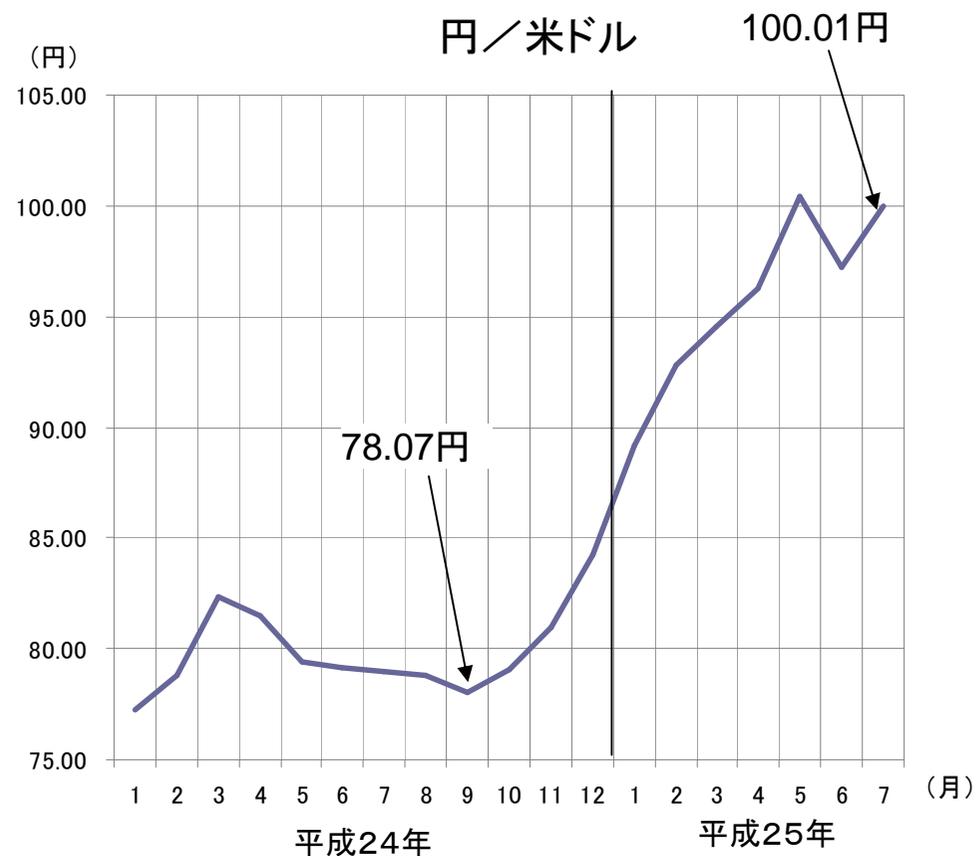
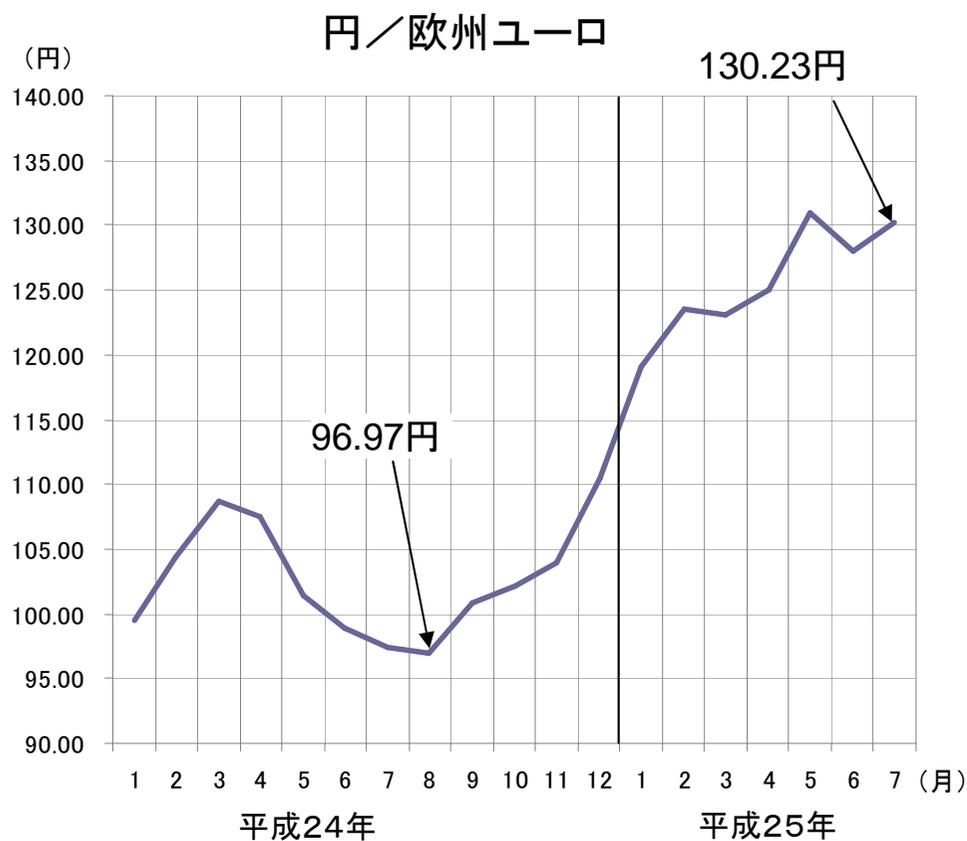
(平成25年と平成22年の比較)

○ 平成24年7月以降の入荷量・消費量については、平成22年に比べて増加している。
特に、平成25年5月は平成22年5月に比べて30%近く増加している。



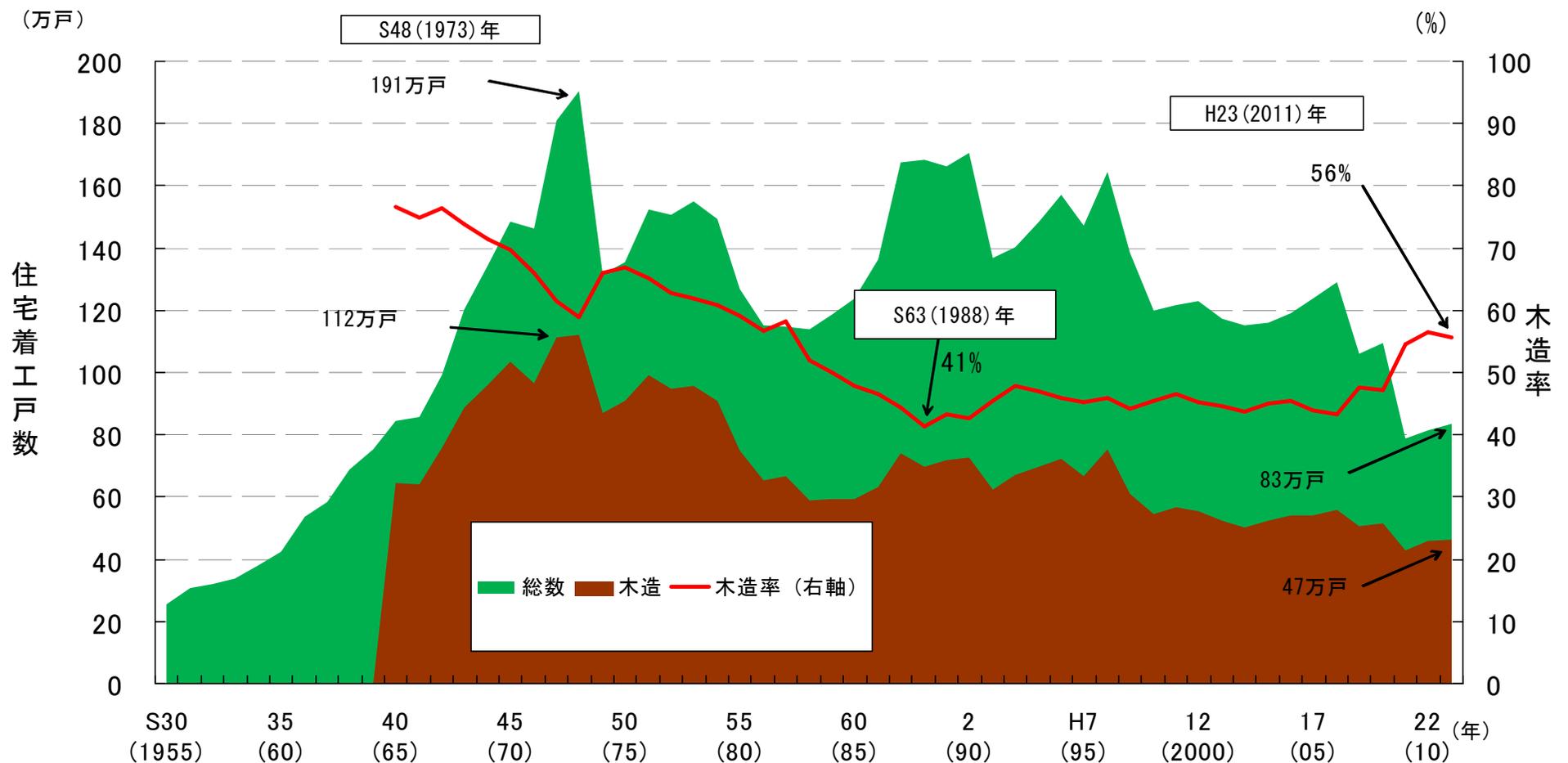
■ 為替レートの推移（平成24年1月～平成25年7月5日）

- 平成24年11月中旬以降、急激に円安が進行。
- 7月5日時点で、1ユーロ130.23円、1米ドル100.01円。



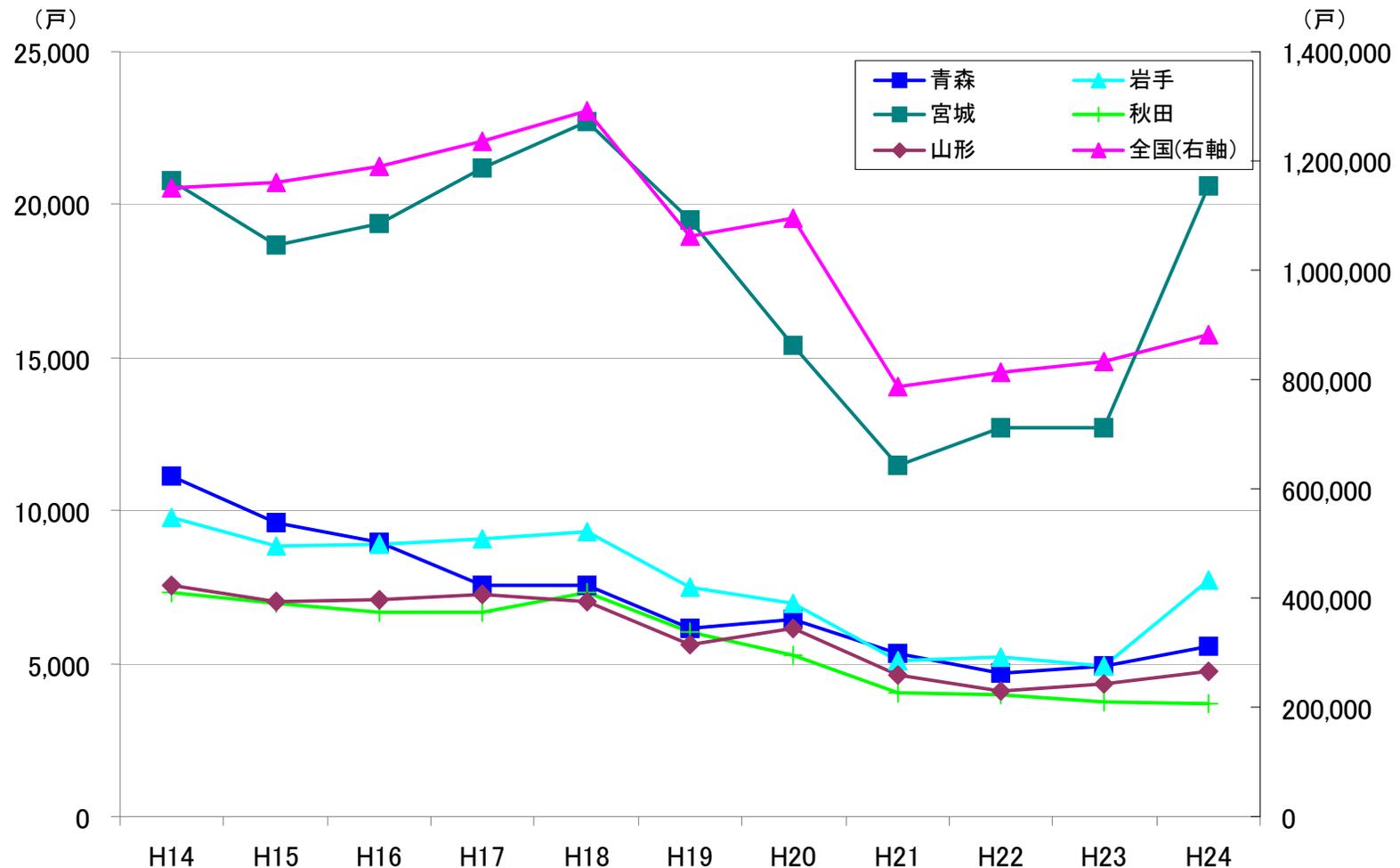
■ 全国の新設住宅着工戸数の推移（昭和30年～平成23年）

- 新設住宅着工数は昭和48年に過去最高の191万戸を記録した後、長期的にみると減少傾向。
- 木造率は昭和40年以降減少し、昭和63年には41%まで下がったが、その後、横ばいから上昇、平成23年は56%となっている。



■ 全国と東北5県の新設住宅着工戸数の推移

○全国の新築住宅着工戸数は平成21年以降上昇傾向にある。東北森林管理局管内5県の中では、岩手県と宮城県が大幅に増加。



■ 災害復興公営住宅の整備について

① 岩手県の計画

平成23年度から平成27年度までに約6千戸を整備する計画。

市町村名	計画戸数	市町村名	計画戸数	市町村名	計画戸数
洋野町	4	岩泉町	51	釜石市	1438
久慈市	11	宮古市	793	大船渡市	795
野田村	120	山田町	702	陸前高田市	1009
田野畑村	69	大槌町	980		

出典:岩手県「社会資本の復旧・復興ロードマップ【総括表】」(平成25年4月25日公表)

② 宮城県の計画

平成23年度から平成27年度までに約1万5千戸を整備する計画。

市町名	計画戸数	市町名	計画戸数	市町名	計画戸数
仙台市	2,800	登米市	(50)	七ヶ浜町	250
石巻市	(4, 000)	栗原市	(20)	利府町	(20)
塩竈市	300	東松島市	860	大郷町	(5)
気仙沼市	2,200	大崎市	150	湧谷町	50
名取市	(1, 000)	亶理町	400	美里町	(60)
多賀城市	361	山元町	600	女川町	715
岩沼市	224	松島町	40	南三里町	1,000

※ 整備戸数は、今後の市町の調査等により変更する可能性がある。

※ ()書きの戸数は、市町で未確定、または、見直し中のため、市町へのヒアリングなどを基に、県が試算したものの。

出典:宮城県「宮城県復興住宅計画」(平成24年4月4日)